

小児画像診断部

1. スタッフ（平成28年4月1日現在）

部長（教授） 相原 敏則
副部長（講師） 古川理恵子
医員（病院助教） 中田 和佳

2. 小児画像診断部の特徴

医療が臓器別に専門分化が進む現在、全身を診る唯一の診療科が小児科であるが、私たち小児画像診断部もそれにならない、全身の疾患を画像診断の対象としている。その特徴を一言で言えば「適応を判断し検査計画の立案から始まる画像診断」となる。[注1]。そのために、附属病院本院では放射線科医が担当していない超音波検査も装置を自前で所有し引き受けている。[注2]。

小児画像診断部は自前のカンファレンス室を有している。JUMP（電子カルテ）、PACS（画像診断電子保存供覧システム）を大画面プロジェクター（DICOM対応）で映写し、出席者に供覧して議論することが可能である。このカンファレンス室では小児科（頻度は週2回）、小児外科（同週1回）、尿路（関係する診療科は小児科と小児泌尿器科。同週1回）、小児整形外科（同週1回）の定期画像診断カンファレンスを開催し、依頼医との関係が「オーダーと読影レポートの往復」で終わらない工夫をしている。

注1：

詳しくは子ども医療センターホームページの「小児画像診断部」をご覧ください。（学校法人自治医科大学HP→自治医科大学附属病院→とちぎ子ども医療センター→診療科等のご案内→小児画像診断部）

注2：

小児画像診断部放射線科医が、超音波検査が必要と判断した症例に限って検査をお引き受けしている。そのため予約枠は開示していない。

・専門医

日本医学放射線学会放射線科診断専門医 相原 敏則
古川理恵子
中田 和佳

3. 実績・クリニカルインディケーター

1) 読影件数

単純X線写真	4,503
造影検査（X線透視）	157（内診療時間外2件）
CT	671（同5件）
MRI [注1、注2]	1,181（同7件）

超音波 616（同35件）

注1：

鎮静を試みたが入眠剤せずMRIを行った検査実績を下に示す：

鎮静を試みた検査件数	700件
入眠剤せず検査が中止（のべ）	58件
中止割合	8.3%
検査中止までの平均拘束時間	134.3分（2.2時間）
検査中止までの最大拘束時間	205分（3.4時間）
検査中止2回以上かつ2時間以上の待機を要した患者数	8件

注2：

麻酔科医による全身麻酔下でのMRI 22件

2) 画像診断カンファレンス

（会場：小児画像診断部カンファレンス）

小児科	月曜、木曜 12：45から
小児外科	月曜 16：00から
尿路（小児科、小児泌尿器科）	火曜 17：30から
小児整形外科	月曜 17：30から
Tumor board	第3月曜 15：30から

その他症例により関係各科が随時時間を調整し集まっている。2015年実績は、小児科腫瘍班による記載参照のこと。

これら小児画像診断部で開催するカンファレンスの他、NICU担当医との画像診断カンファレンス金曜12：30からのカンファレンスに出席している。

3) 附属病院放射線科との関係

血管造影検査、血管内治療、IVRは附属病院放射線科が担当している。

4) 研修医教育

2013年11月から、研修医向けの小児画像診断ミニレクチャーを行っている。

日時： 木曜日午後5時15分～

会場： 小児画像診断部カンファレンス室

講義の対象として想定しているのは放射線科研修医だが、小児画像診断に興味がある方は、職種、診療科を問わず歓迎している。

4. 事業計画・来年の目標

1) X線CTの新規導入

子ども医療センターでは、その性格上重症患者が増加することは避けられない。院内での搬送に伴う患者の負担を軽減すべく、CTの導入を目指して予算

要求している。

2) 高額医療機器の更新 (MRI、MRI対応生体モニター、超音波、CR)

子ども医療センターは2016年9月で開設後10年の時間が経過する。開設時に購入した機器の中には陳腐化が憂慮されるもの、頻回の故障をきたすものが出てきた。

小児の脳神経の画像診断検査には3T (テスラ) -MRIが欠かせない装置となっているが、附属病院中央放射線部では入眠まで患者と家族が待機する部屋やMRI対応生体モニターの装備がなく、鎮静下での3T-MRIを使った検査が困難な状態である。小児画像診断部で現在稼働中の1.5T-MRIを3T-MRIに更新することを今年度以降の事業計画の柱としたい。MRI対応生体モニターは故障で2ヶ月間カプノメーター (呼気炭酸ガス濃度計) 使用不可の状態が2回 (計4ヶ月) 起きた。2013年に出された小児関連3学会による「MRI検査時の鎮静に関する共同提言」にてカプノメーターの使用が強く推奨されており、検査を安全に行う環境としては憂慮すべき状態となっている。

超音波検査は、夜間休日の急患にも対応している。

一般撮影装置につながるCR (computed radiography) は現有のままでは、新しい病院情報システムにつなげることが出来ないため、更新は必須である。